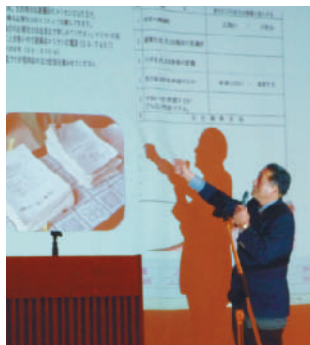


黒潮町民大学第4講座
 災害に強いまちづくりをめざして
 新潟中越沖地震の教訓から

11月14日、黒潮町民大学第4講座が行われ、平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震を体験し、その地震発生直後から地域の状況把握につとめ、住民の不安を取り除くなどさまざまな活動にあたられた、関矢登さん（新潟県柏崎市松美町内会長）、延恵さんご夫妻を講師に招き、当時の様子をふまえ、大きな災害時には日ごろの活動がいかに大切であるかといったことについて講演をしていただきました。



まず始めに延恵さんより当時の様子をお話しいただきました。

自分や家族、身内の安全が確認できてほっとすると、まず『水』がほしくなる。そして『確かな情報』



関矢 延恵さん

被災当日は柏崎市の『ぎおんまつり』があり、みこしの町内まわりを見送って家に入ろうとした時、震度6強の地震に襲われ、突然のこと何が起こったのか訳も分からず、転びながら隣の空き地に入り、四つん這いになって揺れの治まりを祈り、避難所に避難したそうです。

避難所では安否確認を行いながらさまざまな活動を行ったのは『水』と『情報』とのことで、特に情報は口

頭での伝達ではなく、メモなどによる方法で伝えることが大切であると話されました。

地震の規模や被害の情報はもちろん、地域の状況を把握することは、ボランティアの方々に来てくれた時に、どの場所でもどんな協力が必要かといったことを迅速に伝えることができ、早めの対応を行うために大事であると話されました。

ボランティア対応などについては登さんよりお話しいただきました。

地域で現場や住民の状況を把握しておくことが、ボランティアや行政が早期対応するための近道だった



関矢 登さん

地震発生の翌日の午前中には、すぐに各地から来たボランティアの対応をする

ことになり、被災者のニーズに合った協力をお願いするため、独自にアンケートを作成して配布し、住民の安否と被害状況の把握に努め、町内の地図に被害状況やニーズを書き込んでいったことが、ボランティアに的確な指示を出すことに役立つたと紹介してくれました。

しかし、ボランティアがどういったものかという認識がなく、他人が自分の家に入ることに抵抗のある人もいて、町内の副会長や役員を同行させた時もあったそうです。

その時、ボランティアに対する認識を変えることが必要だと感じたとのことでした。

行事イベントは地域の絆を強化する重要な役割を果たす

まちづくりにおいては、地域の活動を通して自分たちのことを考えることができるのではないかと思います。たくさんの行事を企画して地域のつながりを強くしようとしているそうです。ま

た、中心となるメンバーが固定されないよう、町内の行事別に実行委員会を作っているとのこと、PTAや民生委員にも加わってもらい、まちづくりの意識を普及させ、助け合いの気持ち根付くよう取り組んでいくとのことでした。



被害を少しでも小さくするために力となるのは、自分の身は自分で守り、家族や地域で助け合うこと、大事なのは普段からの心がけで、地震などの自然現象を止めることはできなくても、災害による被害は日ごろの努力によって減らすことができます。普段からの心配りがいざという時に力を発揮します。

災害に備え、普段のつながりを大切にして地域の防災力を高めていきましょう。

お問い合わせ 【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀総合支所】総務課 総務係 ☎55-3113(直通)